
A n o t h e r C e n t u r y ' s E p i s o d e G

キラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Another Century's Episode G

【Zコード】

Z5879V

【作者名】

キラ

【あらすじ】

この作品は一次創作です。内容が嫌いな方はすぐにお戻りください。

この作品にはキャラ崩壊、原作ブレイク、パクリ機体、オリジナル設定、グダグダ、更新カタツムリ以下、軽音部だが演奏しないK-ONメンバー、戦闘シーンは上手くない、各原作をあまり知らない、などの要素が含まれます。

プロフィール（前書き）

粉碎！玉碎！！大喝采！！！！

プロフィール

キャラ紹介

オリジナルメンバー

キラ（男）

年齢 18歳

特徴

長身痩せ型

狂学者（男）

年齢 18歳

性格

「パンがないなら、空気を食べればいいじゃない」

ちひる（ ）

年齢 18歳

性格

「ウーロン茶を所望するーー！」

特徴

太巻き

イッシャイ（ ）

年齢 19歳

性格

「へへへ…きょうのパンツは何色だい？」

特徴

特殊刑事課（「ち亀的」）

例 食事の時間だ b y 海パン

参戦キャラ

K - O N

出でくる可能性が在る作品

コードギアス R 2

機動戦士ガンダムシリーズ

機動戦艦ナデシコ（劇場版まで）

プロフィール（後書き）

もうやめて……作者の「」はもういよいよ……！
…

最初のタイトルが思い付かない・・・・

byイッサイ(前書き)

「そういう物つてあるよね……」

狂「タイトルなんて糞喰らえーーー！」

最初のタイトルが思い付かない・・・

b yイッシイ

夏真つ盛りな今日この頃、それは突然の事だつた・・・

キ「あ”あ”あ”・・・蚊が!! 蚊が!!・・・あつー狂学者、シビレ農仕掛けた」

狂「俺は遠くから、U・TSU・ZE ！！」

ち「スタミナが・・・」んがり肉!!!!

イ「畜生・・・・PSP、持つてねえ・・・・」

只今、絶賛遭難中の一 行

何處かの森

イ「と、言つよりこの状況でなんでゲームしとるん!!」

ち・狂・キ「現実逃避!!!!

イ「なんて清々しい返事!!・・・まあ、それは置いといてココ何処?」

狂「森!!!!

ち「ハイツー!狂学者、10ポイント!!!!!!

狂「よしつー!」

キ「でも、何だかんだで原因お前じやん?」

「様々な不幸が重なつただけだよ！――」

ち「えつ？」でも……

回想

キラ一行、お祭り参加中

キ「なんで祭りの屋台は基本的に値段が高いんだよーー！」

ち「なんでや！」

狂お腹が減つたなら、自分の体を食べればいいじゃん？」

ギー先生!!!それは幾らなんでも厳しいです!!!

？」
「お~い！」

ち
-
・
・
・
・
・
・
・
なん
で
せ
・
・
・
・
・
・
・
・
・

D 久しぶり、俺だよ

キ「パイナッフルめ・・・・・」

D 「俺、今ハガレにハマつてゐんだ」

口は某鉄金の主人公がする
金匱の真似をした

一同「！」

ブワッ！

うわあ～！！

八

ガシツ！ キ一逃げるぞ！！

キラは誰かに足を捕まれたので振り返るとそこには・・・

卷之三

狀況說明

多分Dの精で空間が割れる

イッシイ落ちるがちろるに掴まる

ちろる、狂学者に掴まる

狂学者、逃げみつとしたキラを道連れに・・・

現在

回想終了

ち「つて説だから、イッシャイが悪い」

イ「いや、振り返ったらやっぱり悪いのは口だと思つんだナ」

「・

狂「何言つてゐる・・・・・・ハツ！」

ち「よし、帰つたらひつ話せ合つて」

キ「パイナップルめ・・・・・・」

ち「そろそろ、現実見よつか・・・・・

キ「・・・・うん」

一行は森を抜ける努力を始めた

最初のタイトルが思い付かない・・・

b yイッ シイ（後書き）

キャラ紹介

D（男）

パイナップルが嫁

特徴

ああ、ダメだコイツ・・・早く何とかしないと・・・な感じ

そしてコイツの出番は・・・

もつ無い！――――！

第一話 街を田舎やつ（繪書き）

キ「なあ、ソーラーデギアスとガンダムが混ざった世界だよな

「ち「戻るやつだな」

第1話 街を田舎そ

森を抜けようと頑張るキラ一行

キ「なあ、いつになつたら森から抜けるかな？」

ち・狂「さあ……」

キ「わあつて、出でられなかつたらどうすんだよ……。」

ち「それは……」

狂「うーん……」

イ「腹減つた……」

キ・ち「黙れーーー！」

あんまり会話続かなくなりかけてた時……

ち「み…見ろ…出口だ

狂「やつたか…」

キ「ナリナリ…」

ピューン

一行「へつー?」

ドカーン 目の前で爆発

一行「……」

一行「いやああああああああああああああ…」

全力で逃げるキラ 一行

キ「な…何だ今の一?」

狂「知るかああああああああああああああ！」

ヰ「ぬわああああああああああああああ！」

ナガシマ・アンド・カンパニー

三一八

狂「ふんつ！」

數分後

ち「ふう」

狂「あれっ？誰か足りないような

キ・ち「……」

キ・ち・狂「イッシイ！！」

その後、イッシイを探し始めた

？「何者だ貴様は！？」

力チャつ 銃を突き付ける

イ「ひい～」

ち「あっ、捕まつてゐる

キ「はあ～、なにやつてんだか

狂「なあ、あいつらの後ろーーー！」

キ・ち
ん?
」

キ「あれ何?」

狂「キラちゃん、あれは「ＫＭＦ」だよ！しかも、月下とサザーラントじゃん！」

ち「丁度、2機すつだし、奪つらまわらばせ。」

狂「まあ、おちんしちゃーーー、どういふ奪つか考への」

キ「なあ、イッシイが撃たれそんすけど……。」

狂・ち「なに」!!

茂みから兵士にダイブ

兵士「ぐえつ、重い？」

兵士2「何者だ!!」

木の棒で後頭部を殴るキラ

兵士「ひるー？」

バタツ

狂「なんとか機体を確保したなあ」

ち「でも、これ… “ぐらぐら”で動かすの？」

狂「さあ～」

ち・イ「おい？」

キ「適当に乗つて、練習しよう」、それで慣れよう」

數十分後：

狂「ある程度慣れたなあ、みんなどう?」

キ「元壁さ？」

ち「何となく……」

イ「わからん……」

狂「……ふつ。イッシイ……。」

イ「何？」

狂「お前……ショボいな……！」

イ「つるせえ？」

キ・ち「ふつ……」

意味が分からぬ人

狂「まあ……それはおいといで、このまま街を田舎者へ。」

一行「お————！」

キラ・イッシャイ…月下

狂学者・ちひる…サザーラント

その後、街に着いたが思わぬ、惨劇が待っていた…

第1章 End

第1話 街を田舎そつ（後書き）

キ「ラシスロットか蜃氣楼に乗りたかった！」

狂「キラちゃん…乗つたら死ぬよー！」

キ「ええーーー！」

強制ひきこもる（前略）

今回の作戦は…

キ「あ～あ～、みなさん聞こえますか。聞こえたら返事しろ……ど
うだ……」

狂「へ~い、聞こえてんぞ!」

ち「回じへ…」

1
—
· · · · ·
○
—

ナ「おつかれサシヨー。」

イ
「
。
」

キ「…まつ
いいか」

イ「つて、おい！」

キ「今更、返事か？」

イ「聞こえてたけど、どうやつて返事したらいいか分からなかつたんだぜ！」

ち「カッ口つけるなよ」

狂「そーだ、そーだ」

イ「ヽヽヽヽ ウワアーンーー！」

敵の基地付近

模擬戦：

キ「おー、やつらがやつらーー！」

狂「キラちゃん、此処へ何しに来たんだよーーー加減教えるや

ち「そーだ、そーだ

キ「ふふつ。聞いて驚けーーー」の基地には、あの「ガヴェイン」があるんだぞ

ち「本物!」
「

狂「どうやって、パクるん!」

キ「アイツが来たら、突っ込むぜ!」

ち・狂「ああー、アイツかあー」

イ「アイツ?」

キ「イッシイセイヒンニシヨー!俺のだけじゃから!」

イ「え?...何でや?...」

狂「突っ込んで死ぬなんてゴメンだから!」

イ「ううううう

ち「すぐ終わるから、多分」

基地裏側：

狂「僕とちるるでガヴェーインを探して、乗り込めばいいんだな！」

キルセラード

ち「ナウかねんば、ジイちゃん?」

キ「俺は何か適当にパクるから！」

キ「といつ」とで、作戦開始

狂・ち「お」

一方、外では：

? 「お前、俺が誰だか知つてんのか!! AEUのパドリック・コー

ラサワーだ。お前よりとは違つて、スペシャル様なんだよ

？「.....。」

ドカン

パ「あつー？」

？「.....。」

ち「動いたけど、操作し辛い！！」

狂「およっ、ちうる君よー、アソコにラサワーがいるぞ！」

ち「まじでえー！」

兵A「ガヴェインを返せえー！」

兵B「我々はKMFで支援する、他の者は防衛網をはれー！」

？「では、私も出撃しようつ

兵B「隊長ーー！」

狂「キラちゃんの奴、何やつてんだよーー！」

ち「ちよっとーー隊長機が来たよーー！」

？「その機体を奪つたレジスタンス共よー直ちに投降しろーー！」

狂「あつ、Jの声は……」

ち「オレンジーー！」

？「……私はオレンジではない、ジユレ!!ア、……」

狂「知つているから自己紹介はいこよーー！」

ジユ「ほつ、死にたいらしな……貴様いらっしゃあああーー！」

狂「あつ、やべつ……キレた！」

ち「アホ も……？」

ジユ「ガヴユイン」と、あにつ等を墜とせや～～～～～～

兵「解……」

戦闘開始

一方…

キ「この機体貰いつ……」

乗り込んだ

キ「え～と…設定をこじりて…よし、これでよし…」

キ「よ～し、ランスロットクラブ……行くぜえ～～～」

キ「いい感じだあ、これなり…」

「おおと、こつから先は行かないぜえ！－レジスタンス野郎！」

「…ハベサ」ナ

バキンッ
フラッグの腕が吹き飛んだ

「アーティストの間には」

?

「邪魔すんじゃねえ
！」

? 「エクシア、目標を破壊する」

ズバツ

」「あ……俺は……スペシャルで……2000回で……模擬戦なんだよお
う！」

ドカン　エクシア、フリッギを破壊

キ「うひやあ～やるなあ。」

？「……」

キ「さて、早くちうる君に合流するかあ！」

キラはちうるの元へ急いだ！

一方、ちうる達は……

ち「狂学者ーはよ、ゼウスがしてやーーー。」

狂「ハドロン砲、用意ーー！」

ジヒ「ん?いかん、退避しおおおおーー。」

狂「ハドロン砲…発射…！」

ビショーン

ドーン

狂「威力ハンパねえ！」

ジエ「おのれえ、レジスタンス共

ジエ「この私が葬つて…」

キ「わせるかあ…！」

ザザーランドを蹴飛ばした

ジエ「ぐつ…おのれ…」

狂「やつと来やがった」

「遅せ～よ～～？死ぬかと思つたわ～」

キ「へいへい」

ジエ「貴様あ～～よくも～～？」

キ「居は無用！離脱するだ」

狂・イ「了解～～！」

ジエ「おのれ～、おのれ～～？」

キラ一行：

キ「さて、ガヴェーインも手に入つたし、戦力がふえたなあ～～！」

狂「やっぱ、ハドロン砲は最強だわ～」

ち「操縦する身になつてみりやあ～～（ 0 ）／＼」

イ「俺は……暇で暇で……」
「（…）（…）（…）」

ビュン

一同「……」

キ「ビーム兵器!？」

ち「あ……あれは……」

一同「ガンダムだあああああああ……」

次回に続く

強奪ひやつせおおおーーー（後書き）

ガンダム3機VS KNF(キラ一行)

仲間入り（前書き）

さあさあ、キラ達の運命は！？

キ「エクシアだ！逃げろー！？」

イ「待てよー！？」

ち・狂「いやあ～！～？」

? 「ちょっと、待つて！？」「

その声を聞いた時

キ「ん？」

キ「ちょっと、待って! まさか…女の子?」

狂・イ・チ「（。。）ハア？」

? 「そーだよー！！」

キ 「(何か聞き覚えのある声だなあ？) 「

キ 「パイロット…そのヘルメットを取れ…！」

イ 「流石に…」

狂・ち 「取らないだろ？ なあ～」

? 「ん？ いいよ…！」

イ・ち・狂 「いいんかい！？」

カポツ

? 「どつたよー！(> <) /」

キ 「……ふつ」

イ・狂・ち・（*。○。）

? 「あれ～?、何がおかしいの?ねえ?」

キ「まさか、… Hクシアのパイロットが…ふふつ」

イ「なあ…あれ、「唯」じゃねえ?」

狂「…嘘だあ…!」

認めたくない人

ち「…」

放心状態

キ「並ててあげよう。君の名前は誰だろー。」

唯「す、…超能力!…?」

キ「まあ、それはおいといて、何か用?」

唯「実は君達の力を借りたいんだよー。」

キ「ちょっと待ってよー。」

会議中…

キ「ビビりある?..」

イ「ビビりて…勿論、OKだ?..」

狂「お前、目的が違うだろ?」

ち「ビビりでもここ～」

狂「おー?」

キ「参加でOK?..」

ち・イ・O・K…..」

狂「ハア～？わかつたよ

キ「ところで俺たち、参加しま～す！～！」

唯「えつ！本当！？」

キ「顔近い！～！」

唯「ちよつと、待つて！～！」

キラ一行「大丈夫かな？？？」

～ストレマイオス～

唯「たつだいま～」

キ「へえ～

狂「ちゃんとしてる」

イ「 」

ち「 女の子しかいねえ（< > ）」

「 同令室」

？「 来たわね...」

唯「 わわわわわわわ～ん、連れてきたよ～！...」

れ「 膜長よ～」

キラ「 行」（。○。）

れ「 あうひ～うかした？ねえ、反応してよー。」

正氣に戻る

キ「 あつ、いえ... 何でもないです」

さ「改めまして、私が艦長の山中よ。宣しくねー。」

一同「宣しくお願いしまーすー。(^ ^)ー」

さ「寒はねー君達に早速お願いがあるのよー。」

キ・イ・はい?」

さ「唯ちやん、一人を連れてあげてみようだい

唯「はーい、じゃあ、付いて来てー」

キ・イ?」

さ「それと…あなた達は今回行つ作戦を説明するから

狂・ち「はーい」

キラとイッシャイは…

唯「此処だよ」

キ「此処でなにすんの?」

唯「技術部員が作った新型KMFのテストパイロットだよ」

キ「本当にーーちゃんと一機ある……」

イ「でも、何で俺たち?」

唯「私達の組織にKMFをまともに操縦する人が居なくて……」

キ「まあ、理由は二つあれ……俺たちしか居ないから……」

イ「俺も」

唯「ありがと(づく)れ(づく)」

キ「それじゃあ、一機とも姿を拝見しようか」

バサ～ 機体の周りの布をぬぐう

キ・イ「い…これはずー…（。〇。）」

唯「そう、これが作られたKMF。ランスロットとヴィンセントだ
よ」

キ「これに…俺たちが」

イ「乗る…のか」

唯「それじゃあ、早速乗つてみて」

キ・イ「お…お」

早速乗つてみた

キ「前に乗つっていた奴と違つたな～

イ「俺はまだ…まだよ」

? 「二人とも、聞こえますか?返事をしてください。」

キ・イ「はい」

? 「良好のようですね。私はオペレーターの小野と申します。よろしくお願ひします」

キ・イ「よろしくお願ひします。」

イ「あ、ひなみに小野ちゃん。名前は……」

小野「優里華ですけど、何か?」

キ「じゃあ、呼びやすくて、『やつぱー』で……」

ウ「は……あ?」

「では、本題に入ります!今日は新型KMFの性能テストを開始します」

ゆ「発進したら、新宿ゲッターの敵KM-F部隊を殲滅してください！」

キ・イ「了解！」

ゆ「あくまでテストです。深追いをしないで下をへー。」

キ「分かつたよ」

ゆ「では、ランスロット発進スタンバイしてくださいー。」

キ「ゆうつペ、敵部隊の情報… p l e a s e -。」

ゆ「はーつ、データを転送しますー。」

キ「…………なるほど」

ゆ「キリヤ、こいつでも出撃可能ですー。」

キ「ア解ー・ランスロット…MEブースト…！」

Φ「ランスロット…発進…！」

ギュアー

唯「うわあー、いきなりフルスロットルかあ

キ「マニアカル以上だ…」これなら…」

Φ「ヴィンセント、発進準備完了…！」

イ「行きまーす…！」

イッシャイ、キラの後を追う

合流

イ「えーと、今回の作戦は何だっけ？」

キ「話し聞いとけよ?。まず、この機体に慣れ、それから戦闘データを取るのが今回の作戦だ。OK?」

「イ「OK」

キ「大丈夫かよ?」

「二十分後」

ゆ「ある程度慣れましたね。これより敵サザーランド部隊と戦闘して貰います!試作機なので無理をしないよう!」

キ「OK 分かつたぜ」

ゆ「では、がんばってくださいね」

サザーランド部隊

兵A「イレブンを監殺してしりりー!」

発砲

イ A 「ひい～？」

イ B 「さあやああ～～！」

兵 B 「イレブンは死ねえ！」

ビュンツ スラッシュユハーケンを射出

サザーランド一機破壊

兵 A 「何！？」

兵 C 「なんだあつや？サザーランドにしては…」

ズバッ

兵 A 「コイツ…！」

発砲

スラッシュ・ショハーケンで飛んで… サザーランドにかかと落とし

キ「いける…」の機体なら一氣に…」

隊長「何をもたもたしてん…。」

兵A「すみません！ 敵が来ました！」

隊長「ん？ イレブン共の増援か？ 数は…」

兵A「一機ですか… やああ～…。」

隊長「おこつ… どうした…？」

兵B「た… 隊長… も… もう一機来ま… やああ～…。」

隊長「くつ… 敵は一機だ！ 取り囲んで破壊しろ…。」

兵士一行「YES MY ROAD！」

キ「ゆりっぺ！状況は」

ゆ「住民の避難はまだです。先程、キラさんの所にコニーオンの部隊
が向かっています！」

キ「まじか！……イッシャイはザーランド部隊を頼む！俺はコニ
オンの連中を相手して……」

ゆ「駄目ですー！」

キ「何でー？」

ゆ「武装をしてないのに…危険ですー。」

キ「じゃあつとめですー！」

イ「もしーーー！キラちゃん」

キ「何？」

イ「ザザーランド部隊が後退して行くぞ！」

キ「何！？ ゆりっぺ、どうなってるんだ！？」

ゆ「分かりません！ ですが、住民の避難は完了しているので早急にお戻りください！」

イ・キ「…」了解した

テスト稼働&データ採取終了…

♪ プトレマイオス♪

キ「ただいま…」

狂「あ～、キラちゃんといっしょ… 実はビックリースがある
だよ」

イ「ビックリース？」

ち「僕たち、ソレスタークリーニングの仲間入りするんだよ…」

キ・イ・（。 〇。 ）＼

狂「もひひと キリチャヒトイシイもだよ～」

キ「まじーっ」

イ「あたあ～～！～（> < ）＼

キ・狂・カ「何があ～！？」

カ「まあまあ、良いじゃないの」

キ「あつ……艦長」

カ「今夜は我々の組織に増えた仲間の歓迎会よ～～～」

一同「やつたあ～～！～（> < * ）＼

キ「（大丈夫かな?）の組織……？」

仲間入り（後書き）

次回：捕虜奪還作戦！

いよいよ、作戦開始日—！

キ「ん！？」もう朝か？」

もぞもぞ

ヰ「ん？」

？」

キ「なつ！？」

バ
ツ

キ「うわあ、あざら

? 「ん? 何だ? もう朝か?」

キ「いつの間に…人の布団の中にはいるんだよ、ゆりつペ…！」

ゆ「部屋が遠いし…帰る気がなかつた」

キ「キヤラが違つたな……おこ……」（ ）→「

「アーティストの才能を認められることは、うれしい限りだ。」

キ「そ… それはいいから… 朝飯でも食いに行こうか?」

「せこ（シ）」

食堂

? 「はい！ Bセット、お待ちどうさまです
次の入どうぞ」

ひよこ

? 「あつ はじめまして、私は憂です。よろしくお願ひします」

キ「キラです」

憂「何を食べますか 何でも作りますよ」

キ「うーん……じゃあ、カレーライス」

憂「分かりました(* - - *)」

食事中

狂「おはあ～、キラちゃん」

キ「……お前にじては、早いな」

狂「ちるむに起きられた」

キ「なるほどな？」

キ「俺なんか、布団を取つたら……」

ゲシツ

キ「イナヒヒ...」

Φ「.....」

一枚のメモが飛んできた

キ「? ? ?」

「内容」

「言つたら、殺す

キ「.....恐つ...すみませんでした!」

狂「? ?」

?「おひ。相、おつづけは腹黒にかい紙をつかひよ

ゆ「変な事言わないでください...?」

キ「.....、あなたですか?」

? 「おつと、これは失敬。私は立花つて言つて、よろしくねー。」

立「キミがランスロットのテストパイロット君だよね」

キ「キラです。よろしくお願ひします」

立「うんうん、いい返事だねえ。あつ、そつそつキラ君 キミのためにランスロットに「エアキャリバー」つているフライテシステムを開発してねー」

キ「エアキャリバー?」

立「うんうん これがあれば空を飛べるし、一緒に付けた銃身をコイルガンと合体させて、「ウアリス」つているのが打てるようになるんだよねえー」

キ「ウアリス… 威力は?」

立「コイルガンの一倍~三倍かなあ」

キ「ちなみに……」

ゆ「いれよつ、捕虜奪還作戦の作戦会議を行います。パイロットは速やかに作戦会議室に集合してください！繰り返します、パイロットは速やかに作戦会議室に集合してください…」

キ「え？、やつら…やつら…やつら…」って呟ねえ…？」

狂「キリヤん、早よ行け…や…」

キ「ね…ね…」

（作戦会議室）

さ「みんな居るわね。これより作戦会議を始めます…やつら…やん、あとお願ひ」

ゆ「（みんな、やつらで定着して…まあいいか）

ゆ「今回の作戦は、フジサンにある捕虜の収容所にいる仲間を救助することです！敵はサザーランドやフラッグなどで編成されています。ちなみにモルディレッジやリストランなどの機影が見られるので注意をして下さー！」

一同「了解ーー！」

ル「では、各自準備をしなさいー解散ーー！」

（格納庫）

立「おっ、キラ君 ランスロットにエアキャリバーを付けたから前より速くなってるから気をつけとけー！」

キ「分かってますよ、立花さん。」

立「もう、秋穂でいいよー」

キ「それじゃあ、秋姉。あきねえ頑張つて、戦闘データを取りますーー！」

秋「うんうん、それじゃあねえ。いいデータを期待してるのでーー」

ゆ「今回の要はキラさんといっしょに来ますーー！」

キ「えつ！？イッシャイも！！」

ゆ「はい、お二人は皆さんが陽動してる間に収容所に潜入り、捕虜を解放してもらいます」

キ・イ「人数は？」

ゆ「二人ですが、二人共ガンダムのパイロットです！」

キ「なるほどねえ……了解した」

ゆ「それでは、発進してください！」

キ「ランスロット・エアキャリバー、MEブースト……発艦！」

イ「ヴィンセント・エアキャリバー……発艦！」

狂「ガヴェイン……」

ち「発進！！」

「唯「エクシ」ア...出るよ~」

紬「セラヴィー……行きまーす」

ゆ「艦長、全機発進しました！」

さ「では、作戦開始！！」

次回へ続く

次回は…波乱な展開に…！

話じの続きです

捕虜奪還作戦 後編

作戦「捕虜奪還作戦」が開始された

兵「て…敵が接近…」

隊長「何い…? 数は…」

兵「6機です…」

?「おやおや、野蛮な奴らが来たねえ…」

?「どうする?」

?「アイツには、悪いけど今回俺らが相手をしねえと」

?「…わかった」

（収容所近く）

キ「さて、取り囲んでる奴らを蹴散らしますか」

ガキン

キ「コイツの火力なら……！」

ヴァリス発射

兵「な……何だ……？」「わああああ……！」

隊長「何い……！……あれだけのＫＭＦを……」

キ「ちるる君、狂ちゃん、今から俺とイッサイで収容所に潜入り、
捕虜を助け……」

バシュ　ハーケン発射

キ「！」　避けた

狂「トリスタンにモルドレッド……まさか……！」

キ「ジノとアーニャか!?」

ジ「へえ～、俺らの事を知つてんの」

ア「……」

キ「邪魔をしないで貰おう

ジ「お前らの邪魔をするのが俺らの仕事だ」

ア「だから……死んで

キ「俺らは死なねえよ……」

ジノ・アーニャ戦闘開始

ア「消えて……」

四連装ハドロン発射

キ「おつーと」

避けるが…

ジ「隙あつーーー！」

ガキン

キ「（時間がない）」

ア「これで」

バシュ　ハーケン発射し、モルドレッドを足止め

ち「キラちゃん、早よ行けーーー！」

狂「俺らが相手をするから」

キ「二人共、頼んだぜーーー！」

イ「キラちゃん、早くしないと時間がなーいよ」

キ「分かつてゐる

ジ「行かすかよー！」

狂「ハドロン砲…発射！！」

バシュ

ジ「おつと…」

ドカン

ア「ジノ、収容所の守りが…」

ジ「ぐつ、他の奴は何してやがる」

（収容所内）

兵「お前らはこのままブリタニア本土に移送する、ヤレド……」

？「……」

隊長「お前らはこのままブリタニア本土に移送する、ヤレド……」

キ「その子を……」

イ「放せえ……」

兵「なつー…?ぐわつ……」

隊長「ガキがあ……」

パンツ 撃つた

キ「バーカ！当たんねーよ」

パンツ

隊長「お…おのれ」

バタッ

キ「大丈夫かい?」

?「うん、助かったよ。あともう一人が奥に…」

キ「イッシイ頼むぞ!」

イ「了解つと?」

?「君は一体…」

キ「俺の名はキラ。最近、君らの組織に入った。よろしくう…」

?「私は…」

キ「知ってる。君の名は漆だろ」

澪「メンバーに聞いたんだ？」

キ「えつ、違うナビ…」

ペーパー 通信

イ「もう一人を助けた、これよりそっちに向流するー。」

キ「OK-分かった」

ペーパー

キ「ゆりっぺ！一人を救出した

ゆ「了解しました。しかし、先程入ってきた道が隔たれているので
別の脱出ルートを転送します」

キ「OK-」

イ「おーい

キ「急いで脱出するぞ」

キ「ああ、早く乗つて!」

澪「分かつた」

イ「ほら、梓も早く

梓「はい」

キラ達は脱出ルートへ向かつた

「一方」

ち「ハドロン砲はあと一発しかないよ」

狂「けど、まだスラッシュュハーケンが...」

ジ「やつをまでの威勢はどうしたあ...」

ズバッ

ち「左腕が！！」

ア「邪魔だから消えて」

四連装ハドロン砲が直撃

ち・狂「うわあああ～！」

ゆ「早く脱出してください！」

狂「まだ…もう一発残つてんだよ」

ア「これで最後」

バシュ

ア「！」

モルドレッドにかすつた

ジ「アーニヤー..」

ち「このまま、ストレマイオスに戻るよー..」

狂「ギリギリ保ったか」

狂学者・ひるひるの帰還

ガヴェイン修理不能

～キラ達は～

キ「イッシイ、そろそろ外に出るぞ

イ「キラちゃん! 前ー..」

キ「ー?」

? 「！」から先は行かない！直ちに降伏しろ！…！」

キ「スザク！！」

澪「これはやな奴に会つたな。」

ス「もう一度言つ！大人しく降伏しろ！…さもなくば…」

キ「…どうしたら

梓「キラさん！天井にヴァリスを撃つてください！」

キ「！」

澪「梓の言つ通りにしたほうがいい」

キ「分かつた！」

天井にヴァリスを撃つた

ス「！」

イ「天井が薄いからすぐ外なんだな」

キ「飛んで逃げるぞ！」

ス「待て！！」

全員脱出

ス「くつそー！！」

キ「あぶねえ？」

「マジでギリギリだったー?」

澪「まあ、助かつたんだ。別に良いじゃないか」

梓「そうですよ~」

キ「それもそうだな」

イ「さて、帰りますか」

作戦終了

次回にご期待!!

捕虜奪還作戦 後編（後書き）

次回 黒の騎士団と同盟

新たな仲間！？（前書き）

ストレマイオスに生活して五日目…

新たな仲間！？

捕虜を奪還して3日後、事件は起きた

もぞもぞ

キ「（またか！？）」

そろ
..

零「(-)。」
零「(-)。」

十一

サツ

キ「あ…あれ？」

バツ

キ「な……何て格好で寝てるんだあーーー!?」

澪「うん…」

ガバツ

ジ

キ「な
何か? ? / /

澪「えへへ？」

キ「ね…寝ぼけてるのだとおーー?」

ダキツ
：

ボディーブローが炸裂

キ「ふ」つー?」

キ「ふ…不覚…ガクツ」

バタッ…

?「…ふあ～（…）ゴシゴシ」

正氣になる…

澪「あつ！？しまった！だ…大丈夫か？？」

キ「YES…my…ガクツ」

澪「起きろー！」

さらにもう一発…

キ「バルさあーー！」

わいせダメージ…

澪「ああ～～またやつてしまつたー！」

キ「あ…朝に一回殴られるとな…浅はかなりー！」

～食堂～

憂「あひー…ねはよつぱこまつり、ビリしたんですか？？」

キ「いろこわあつて…ね。ハハハッ…ハア～？いつものお願い…」

憂「だ…大事にしてくださいよ～？」

澪「すまんー本当にすまんー。三（—）三？」

キ「もうここつて…」

澪「いやつ、寝ぼけて君を殴つたんだぞ…。一回や…？」

キ「あのさあ～、いい加減に名前で呼んでよ」

澪「いやつ、その～～～」

キ「？、男の名前を呼ぶの嫌なの！？」

澪「その…恥ずかしい！～～～」

キ「名前を呼ぶだけだぞ！？」

狂「…朝から大変だねえ～、お一人さん

キ「そうこうお前も大変そうだなあ～。」

狂「一昨日から徹夜続きでキツいんだよ（ノ～～）」

澪「何で徹夜を？」

狂「ガヴェインがぶつ壊れたせいで新たな機体を作成中なのさ…だから徹夜してんの

澪「ふ～ん…」

キ「そういえば、秋姉えから聞いたんだけど、澪が昔乗つてたガンダムを改良し過ぎて、ものすごい奴になつたつてさ～」

パクパク… カレーライスを食つキラ

澪「そうなのか!? 一体、あの人はなに考へてるんだか…？」

ち「おはよう諸君」

キ・狂「おはあ～」

ち「何を話してたの?」

澪「私のガンダムが改造された話だ…！」

ち「大変じゃね～」

「

澪「妙に二二二二するなーーーー！」

キ「まあまあ落ち着きなよ。そもそも、ちうる君が…」

ゆ「緊急連絡！！前方に敵部隊を確認！！至急、第一戦闘配備！！」

ナ「食事中に襲つてくるとはこゝ度胸だ――。皆殺しじやあ――?」

一同「う…後ろに…は…般若が…? ?」

兵A「ストレマイオスを確認しました！」

隊長「攻擊開始！」

ストレマイオス

「敵部隊が交戦して来ました！艦長！！」

さ「わかってるわー！ガンダムチーム、出げー！」

ゆ「あつ、待つてください……キラ君何してるのーー?」

キ「ちよつちよつ……キラ君何してるのーー?」

キ「……食事の邪魔した奴らを消します……邪魔しないでーー!」

キ「……(田)がやばいわね……好きにやせんかあ?」

さ「それじゃあ、全機撃破してね」

キ「……了解」

兵A「た……隊長!……じょ……上空より敵機!」

隊長「何い!?数は?」

兵A「一機です!」

（上空）

キ「敵：発見。破壊する」

ガキン ヴアリス(ハドロンモード)

隊長「な……何やつてゐ?……敵はたつた一機だぞ。」

兵A「で……ですが……ガガツ……ピ……」

隊長「Q1！？」「ひつしたー！？」

兵B「た…隊長！？ランスロットのパイロットから通信が…」

隊長「何い！？」

「降伏してください… 戦う意思の無い者は自分は撃ちません… た

隊長・兵「（た…多分！？？）」

隊長「こ…降伏などするか！！」

「やはり……そつ答えますか……なら食事を邪魔した恨みをアナタに晴らします」

隊長「何故！？」

隧道「」ぬべなれこ「」ぬべなれこ「」ぬべなれこ... 亂歩あああああ...

兵「た…隊長…！？」

キ「スッキリした…ん？」

キラの目にしたのは……イレブンの家族の死体とまだ生きている女の子

キ「…アナタ達、あれ…どうこういとーー?」

兵B「あれは?その…」

キ「こめえら……消えろおおおーーーー?」

兵B「ぎこちややややややーーーー!」

ランスロットから降りてそばによる

キ「…おいつ?大丈夫…か?怖い人はいないぞ」

ガガツ…

キ「キラさん、どうしました?」

キ「ゆりつペ?…今、人質らしき女の子を発見したんだが…」

ゆ「?、どうしたんです?」

キ「……艦に連れ帰る」

ゆ「わ……分かりました。皆を元気にしておきます」

ブチッ……通信を切る

キ「じゃあ……ついてきてくれるか?」

女の子は頷いた……

（帰艦）

秋「キラ君お疲れ……ん? その子が保護した……」

近づくと……キラの後ろに隠れる

秋「……ぐすつ?」

キ「まあまあ?」

キ「じゃあ… つこひあと… くれる?」

? 「…」

「司令室へ

キ「失礼しまーす

ル「お帰りなセーー」

キ「…何してるんですか?」

ル「何つて、ティータイムだけど?」

キ「いやつ、それは見れば… 分かるんですけど…」

紬「キラ君も座つて座つて

律「此処に入つたら、ティータイムしないといけないんだぞーー!」

澪「んなわけ無いだろーーー？」

？「…」

キ「まあまあ、あまり大声で叫ぶのは…」

澪「あ…すまん？」

キ「さて、本題に入るわね。その子の面倒…誰が見るかよねーーー！」

キ「そーーー？」

唯「私が見るーーー！」

近づくと…サッとキラの後ろに隠れる

唯「ガ（。。。）ンー！」

澪「私は…」

？「…」
首を横に振る

澪「駄目かあ？」

「… #ハナヤシカセヘ」

？」
「……」
領く

ヰ「>匚!?

さ「キラ君に決定！」

キ「(。 。) ハア?」

澪「大丈夫だ！私もいる！！」

「せいかいならん」

梓「そういえば…その子の名前は？」

キ「あつ……？ そりだ、君の名前はー…？」

？「…… 明田…… 華」

キ「明田華……って、いうんだね？」

明「……うん」

一回「よひしへねー 明田華ちゃん」

明「……うん」

新たに仲間！？が加わった

新たな仲間！？（後書き）

次回…狂学者の機体がついに…

「これ宇宙（そら）へ向けて準備！（前書き）

何か精神的に疲れた

いざ宇宙（そら）へ向けて準備！

明「キラ兄様、朝ですよ！」

ユサユサ

キ「ん！？」
明日華か？

澪「あいつ…キラ起きたー！朝食の時間だぞ！」

「あれ？ 珍しく布団に潜り込まなかつたんだな（*。）

バキツ

キ「ぐはつ！？」

明「なにすんですか!? キラ兄様は私のものですよ!」

澪「な!? 何をぬかす! !」

喧嘩中

「ソシ… 部屋から逃げようとする

明・澪「おいつ?逃げるなあーーー!」

食堂

十一

明？澪

キ「あの~、あまり見られると…た…食べづらいんだけど?」

明・澪・キツ
睨む

キ「いえ…何でもないです…？」

狂「ふあ～…おはみーキラちゃんー」

キ「なあ、助けてくれ（。。。？）」

狂「何だよ！？急に！？」

明「兄様！！私と朝食を一緒に食べるですよーー！」

澪「何を言つてゐー私とだー！」

狂「何これ……修羅場になつてんぞ……」

キ「だから、助けてくれ〜！！？」

狂「知らん！！」 キッパリ！！

キ「えつ！？ちよつ……」

明・澪「ああ～一緒に食べましょ？？」

キ「い……いやだあー……ああああああ～」

（格納庫）

キ「や……やつと解放された？」

秋「あつ、キラ～ん。ちよいと来て」

キ「？」

秋姉えからこんな相談が…

秋「実はね 狂君の機体を造つてた時ね、なんと新たなMSの設計を思いついたのだー！」

キ「はあ～」

秋「ふつふつ、さあ聞くがいいその機体の名は…………あつ、決めてなかつた！」

ズルツ…

キ「ハハハツ？ ちなみに性能は？」

秋「えーとねえ、ビームバリアーと折りたたみ式のビームソードと…」

キ「武器の事じやなくて…？」

秋「ん~、簡単にいふと近接・射撃が出来る万能型なんだよ~」

キ「へえ~（やつと、まともな話し�になつた）」

秋「まあ、実際に見た方が良いかもね~」

（整備室）

秋「ガンダムハルートの隣にある奴だよ」

キ「あ…あれって…？」

秋「どうぞ？ 淫いでしょ、頑張って造つたんだよ！」

キ「…秋姉え、名前決まってないよね…まだ。」

秋「あつ！？名付け親になるの？」

キ「デスティニー・ガンダムでどうよ…」

秋「デスティニー…「運命」って意味かあ…よしつ…じゃあ、あの機体は「デスティニー・ガンダム」と名付けよう！」

キ「デスティニー…か」

キ「んじゃあ、パイロットはキラ君ね！」

キ「うんうん（・・）（—）…ん…？今なんて…」

秋「だからパイロットはキラ君だつて言つてゐるじゃん！」

キ「（。。。）ハア？」

秋「だつて、キラ君が拾つた明日華ちゃんが勝手にランスロットを愛用しちゃつて大変なんだから」

キ「いやいやいやー？ 何でアイツがランスロットなんかにー？」

秋「いやー気付いたら、そくなつてたしー、艦長からの命令でもあるんだよ」

キ「……まあ、仕方ないか」

秋「乗るんならコンピューターに自分のコードを入力してね」

キ「わかりました」

（司令室）

さ「みんなに集まつてもひつたのは他でも無いわ！私達は宇宙に向かいます！」

唯「えつーーっ宇宙ーー」

律「でも、何で急に？」

さ「実はね…」

～話しが…

澪「なるほどな…」

梓「確かに無視するわけにはこきませんね」

ち「でも、どうすんのー？その「軌道エレベーター」に設置している衛星レーザーの破壊を…」

さ「勿論ガンダムチームにやつてもひつわ

明「そういえば！兄様の専用機が出来たって聞いたんですが……！」

澪「……そうなのか！？」

唯「どんなの！？」

キ「専用機じゃねーし、まあいいや。ガンダムタイプで名は「テス
ティニーガンダム」です」

一同「テスティニー！？」

ち「テスティニーって、あの……」

キ「そう、あの『テスティニー』……！」

狂「秋姉さん、 すげえな～」

キ「確かに？」

紬「でも、これで……」

律「ガンダムチームが…」

澪「五人に増えたな」

唯「おめでとう…キラ君は私達と同じガンダムのパイロットだよ…

」

キ「お…おつかれ」

セ「セヒ、セヒセヒ宇宙にあがりますかあ…」

一回「お…」

これ宇宙（そら）へ向けて準備！（後書き）

次回は…軌道エレベーター中継地で戦争じゃあーーー！

手曲（わい）を皿せーーー（前書き）

果たして、どの様な戦いになるのでしょうかーーー！

宇宙（エア）を壊せーーー！

さ「みんなーーー今私たちは軌道エレベーター中継地にいます！敵は簡単に行かせてはくれないーーーそこでガンダムチームとKMFチームを投入するわよーーー！」

一同「了解ーーー！」

（格納庫）

澪「よしつ、梓！私達の本気を見せせるぞーーー！」

梓「はいっー澪先輩ーーー！」

律「私がーーーガンガン狙い撃つてやるぜーーー！」

唯「私だって本気になればーーー！」

紬「みんなの支援にまわるわーーー！」

乗り込む

ゆ「ジークフリート、スタンバイOKですーー。」

狂「よしつーー、ジークフリート、行きますーー。」

ゆ「続いてケルビィム出撃してくださいーー。」律「よつしゃあーー。」

田井中律：ケルビィム、発進ーーー。」

ゆ「続いてハルート出撃してくださいーー。」

澪「了解ーー（しかし、なんでまた…あの人は）」

（回想）

ヰ「よつしゃあーー、デステイニーで出撃…」

秋「ちよつとストーリップーー。」

頭と頭がぶつかる…

ナ「ア...アア...ニハ...」

ち「どうしたんだよ~」

秋「いてて、せつ！そんな！」とよりキラ君…！」

キ「は……はい!?

秋「デスティニー」のアクセスコンピューターに自分の設定データを組み込んだ!?

キ「…………まだですか?」

秋「なら」セーフ」

唯「何で何で！？何でセーフなのー？」

澪「そうだ、そうだーーー！」

秋「まあまあ落ち着いて？」

さ「何で駄目なの？」

秋「実は……」

～理由の説明中～

みんな、状況を理解した

キ「それならそうと書つてくださいよーー。」

秋「いやー私としたことが……つい」

狂「で、結局キラちゃんは留守番か？」

キ「待てー、待つてくれーーまだランスロットが……無理だった？」

律「なんでー？」

明「あー私が使つてゐるからですー！」

一同「何――!?

秋「待つた待つた!!--キラ君には別の機体があるから大丈夫だよ
!!--」

キ「……また今回みたいなことじやないでしちゃうね」

秋「今日は大丈夫!!--?」

秋「でもね、今のキラ君の設定にバージョンアップさせなきゃいけないから時間がかかるよ!!--」

さ「……分かったわ。キラ君もいいかしら?」

キ「了解しました」

さ「では、各自発進準備!!--」

一同「Yes my lord!」

（回想終了）

澪「（設定に時間が掛かりすぎだ、このままじゃあ）」

兵A「羽根付きのガンダムの動きが鈍いぞ！ やれ――！」

梓「先輩――！」

澪「はつーへつー？」

兵B「あの『トカイKMF』を落とせ――！」

ミサイル発射…

狂「ぬつー？ 見えた、見えた、見えた、見えた」

独楽のように回転し、ミサイルを避ける…

兵B「ば…馬鹿な！…ぐわあ―――！」

回転したまま敵に突っ込んだ…

狂「あせあせせせ———.」

狂「わしきね———.」

兵「量産型ネモだ———. 雜魚だ、もつてしまえ———.」

避ける、避ける、避ける、避ける、避ける……

兵「何故だ——? 何故当たらな——.」

狂「雜魚があ———.」

狂「ああああああ——.」

狂「囲め———. 囲めば勝てるべ——.」

「あこがれせひじかねの——. バハムート.」

紬「ええ、砲撃をする隙が無いわ?」

? 「ああ～で、ソレスタイルビーアイシングの猿共、降伏したまえ」

澪「あ…アイツは…？」

梓「な…ナイトオブライツの…」

狂「ルキアーノ・ブラットリー！」

ち「ブリタニアの吸血鬼だ…！」

ル「ほー、猿のぐせに私の二つ名まで知つていろとは褒めてやるう！」

狂「ラウンズが前線に出でるなんて…」

「やばいよー・マジで」

狂「キラちゃん、遅すぎるー早よ来やがれー！」

（一方、キラは）

キ「秋姉え！…早くしないと……」

秋「もう少し…もう少し待つて……？」

キ「キラさん、友軍が囮まれました！」

キ「くつ…卑くしながら……」

秋「ほいつ、セッティング終了……キラ君いいよ……」

キ「分かりました！」

フュイズシフト装甲展開…

キ「フリーダム発進スタンバイ！…！」

キ「……発進準備完了！…！」

キ「フリーダム発進してください…！」

キ「フリーダム！行きます！！」

いざ軌道エレベーター中継地：

「狂学者達は」

ル「さて…猿共は此処で消え…」

兵D「ブラットリー卿！敵が…敵が…敵が…うわああああ…！」

ル「何事か！？」

兵C「ブラットリー卿！敵は一機で突っ込んできます…うわああああ…ガガツ…ガツ…」

ル「敵はたつた一機なのに何を手間取つてゐる…！」

兵A「敵がこちらに接近中…！」

キ「もう勝負はつきました！降伏を！！」

狂「キラちゃん！」

明「兄様！！」

ル「おのれー！猿風情が？」

兵A「馬鹿めつー！チラは200機の部隊だぞーーー！」

ガシュー…ビーム砲、レール砲展開！

キ「ターゲット、マルチロック…行けーーー！」

ビューン…発射！！

兵A「な…何！？」

ドカーン

兵E「我が軍の3分の1が壊滅しました！ブラットリー卿、いかが致しますか！？」

ル「ぬ～、猿風情が…調子に乗るなーーー？」

狂「わっさはよくもやつてくれたなーーー」の吸血鬼野郎！…？」

ル「何！？」

ガキンッ…

狂「テメーの血は何色だーーー！」

ル「わ…私の血は…あ…赤色だーーー！」

ジークフリートでブラットリー卿の機体を叩きつけた…

兵E「ブラットリー卿が…やられた！撤退だ…撤退ーーー！」

狂「よーしーー！」

一同「最後ひでえーーー?」

た「ああ、みんな。今から宇宙そらに上がるから帰艦しなやーーー!」

一同「はーーーーー!」

無事みんなは艦に帰艦し、宇宙そらへ上がった!ーーー!」

宇宙（アーリ）を回遊せーーー（後編）

（帰艦後）

狂「キラちゃん早よ来んかつたけえ、死ぬかと思つたわー！」

キ「俺のせいにするなー」つちだつて大変だつたんだからなー。」

澪「しかし、まあ…あれだけの敵部隊をほぼ壊滅状態にするなんて

…」

律「未恐ろしいー？」

（（：・。）ガクガクブルブル

唯「でも、助けてくれたから別にいいやー」

キ「てゆうか、みんなどんな田で俺をみてんのー？それよか狂ちやんが一番恐いんだけど…」

狂「何で俺に何だよーーー？」

ゆ「確かにその通りです！！」

狂「ゆうつペー…ビセイに紛れて納得すんな…?」

や「まあまあ、良いじゃない、狂君は鬼畜で…」

イ「(出番がない (。 。 11) ガーン)」

なぜか地上へ!?(前書き)

わあ、今回の話は…

なぜか地上へ！？

イ「ぐう」(一)。ズズズズ

梓「うん」

時計を見る

梓「あつ、そうだ…私達は宇宙にいるんだつた」

? 「ハロハロッ！！」

梓「ん…あつ、おはようハロ

ハ「梓起きた、梓起きた！」

イ「んが！？」
「ん」（「」）。

梓「しい～！～」 小声

イッサイに近づく

梓「……」

シンシン…イッサイのほっぺを突つつく

イ「ん～～～～～ぐう～（・ー・）。～～～～」

ヨダレを流しながら寝るイッサイ…

梓「ふふつ？」

イ「ん……つて何、人の顔覗いてんだよ！～／＼

梓「あつすみません！つい？」

イ「ああ～、びっくりしたぜ！～」

カシュー！ 部屋の扉が開く

キ「おい！起きてるかーーー！」

澪「朝食一緒に食べに行こ？」

梓「あつ！ はいっ 今行きまーす」

キ「おいつ！イッシイ。また梓を襲つたな」

「襲つてねーしー!?」

澪「大丈夫か、梓？」

梓「……そ……そんな事より早く行きましょうーー」「

キ「… そうだね… 行くか…！」

澪「うん、早く行こー！」

キ「手を引つ張なんす」

ハ「飯食つぞ、飯食つぞー！」

梓「分かったから、早く行きましょう」

イ「……はい……」

～食堂～

イ・キ「いつただきまーすー！」

澪「キラはいつもカレーライスだな！たまには別の物を食べひよー！」

キ「カレーライスが好きなんだよー！あとカフェオレも」

イ「合わねーよーーその組み合わせーー？」

キ「そうこうお前はなんだそれ！－！太るぞ！」

ズキューン…

澪「太る…ああ～もう終わりだ（ト^ト）」

キ「あ…だ…大丈夫だよ。運動すれば、大丈夫だよーー！」

律「おーす澪ーー！」

ズーン…

紬「何かあったの？」

梓「キラさんが澪先輩の禁止ワードを言つてしまつたんですよーー。？」

紬「ああ～？言ちやつたんだね」

律「？」

ひらめいた…

律「キリコーお前に質問するー。」

キ「えつーー？」

律「お前の好みの女性はどんな人ーー！」

キ「なんだその質問ーー？」

イ「俺は小さい子ーー！」

キ「口リコソ黙れーーー！」

イ「あふつーー？」

殴る…

キ「好みの女性かあーーんーー？でも、女の子は外見じゃなくて…中身だよーーー！」

澪「……中身だと……」

キ「えつー? ?」

修羅場～(トトト)

ゆ「業務連絡…! キリさん、澪さん、梓さん、食事がすんだり艦
室に来てください…」

キ「何だろ?」

梓「とにかく行ってみましょ!」

～艦長室～

そ「呼んだの他でもないわ! 実はあなた達で地上に降下してほしい
のー!」

キ・梓・澪「えつー? (。 。 ?)」

澪「待ってくださいー艦長ーーなぜ地上に私たちがーー?」

さ「実はね、私たちと協力してくれるレジスタンスのメンバーを連れてきて欲しいのーー!」

キ「それ、宇宙に上がる前にやればよかつたじゃないですかーーまさか忘れてたんですかーー?」「...」

セ「うーー!」

キ「(図星かい...)」

さ「わーー私にもいろいろ用事があつたのよ?」

キ「...例えば?」

セ「.....すみません、忘れてました?」「...」

澪・梓「あー、白状した!」

梓「でも、なんで私達三人何ですかーー?」「...」

さ「キラ君は戦力になるし、澪ひやんと梓ちやんはマイスターの中で唯一まともだもの」

キ・澪・梓「ああ～？」

キ「ちなみに合流場所は?」

さ「アラスカ北部よ!! そこからオノゴロ島へ向かい、シャトルで宇宙へ上がる…これが経緯ね」

澪「えーと、つまりそこまで護衛しinという訳ですか?」

「アハニヒ」とか「アハニヒ」とか、引取られてくれるかしげへ。

キ「僕は別に良いんですけど、お一人は？」

澪「…行くに決まっているじゃないか！」

梓「同感です！」

キ「ヒトハヒトですー。」

さ「分かつたわー!準備ができ次第地上に降下してねー。」

キ・澪・梓「了解ー!」

～司令室～

キ「ヒトハヒトで僕たちが地上に降下するとなつましたーー!」

一 同「(。 。) ハアーー?」

澪「まあ、5日間間ないがヒツヒツ終わりますー。」

梓「そういうのではわざと離行番をお願いしますー。」

明「な……なんで兄様も行くんですかー?」

キ「一応、戦力になるし、艦長の命令だものー。」

明「そりこいとじやなくて?」

ポンツ

キ「すぐに歸るから我慢しなやー。」

明「つ／＼わ 分かりました。 その代わりに無事に帰つてく
ださいね」

キ「分かつた、分かつた！んじゃ、行ってくるよ」

一同、「行つてらつしゃ——。」（＊。）（ノ）

こうして、キラ、澪、梓の三人は地上に降下していった！

? 「姐さん? そんな」と言わないでください。」

? 「とは言つても相手はサブフライトで飛んでるからせつこつかよ
! ！」

兵A 「馬鹿め！…そんなもんで空にいる我々を落とすつもつか！？
笑わせる」

しかし…

兵B 「じょ…上空より熱源！？？」

ビヨン…

兵A 「ちよ…直撃…つわああああ…」

ドカン…

キ「此方はソレスタークリーニングのガンダムのパイロットです。援
護します！」

? 「おお、来てくれたつすね！…」

兵B 「なつー? フコーダムだとー...」

兵C 「貴様ー... かへせー...」

兵D 「かへせー...」

凌 「かへせー...」

ビゴン...

バキー... 左足を撃ち抜く

兵C 「な... 足が」

すると田の前にフコーダムが...

キ 「さひつけー...」

ガキー...
...
...
...

兵「うわあああーー！」

蹴飛ばした…

サブフライ特を奪つたフリーダムはそれをレジスタンスに渡した！

？「空飛べば、いつものものっすーー。」

ガトリング乱射！！

兵B「しまつたーー。やあああーー。」

全機撃破！！

～その後、レジスタンス基地～

？「ガンダムのパイロットさん、降りてきていよいよー。」

キ「（何でここも女ばかりなんだ？）」

澪「おー、キラー早く降つー。」

キ「……わかったよー。」

グラサンをかけて降りてきた

梓「何でグラサンしてるんですかー?」

キ「いや……なんとなーく

澪「早く外せー。」

キ「女ばかりだから、はずいんだよー。」

?「もしかして照れてるんですか?」

キ「ち……違う。決してそいつことじゃなくー。」

?「まあ、『冗談はさておき、初めまして私がリーダーのクラリカつすー』といへー。」

澪「私は澪、ガンダムハルートのガンダムマイスターだ！」

梓「私は梓です。同じくハルートのガンダムマイスターです！」

結局、グラサンを澪にとられた…

キ「……僕はキラ…フリーダムガンダムのパイロット…だ」

一生懸命、視線をそらすキラ…

澪「……ちなみに私たちの組織内で唯一 まともな男だ…！それにガンダムに乗ってるのもキラだけだ！」

ク「へー、凄いっすねーー！」

キ「そんなことは…無いーー！」

ク「あつーーー応私もガンダムに乗ってるんですよーー！」

キ「ー?さつきの奴か?」

ク「あつ、分かつちゃつたつすか！？」

キ「名前は『ガンダムヘビーアームズカスタム』でしょ！」

ク「そこまでお分かりですか!？」すゞこいつすねーーー」「

咳払いをする雰囲気

澪「そろそろ本題に入りたいんだが…」

ク「ああ、住まないつす！ついつい…」

事情說明

「分かつたつすー オノ『ロードにあらシャトルで宇宙にあがればい
いんつすよねーー」

澪「そういうことだ！」

キ「こうわけでもうじへ頼むぜー！」

ク「よろしくっすーーー！」

「うして……キラ達の護衛任務が始まつたーーー！」

なぜか地上へ！？（後書き）

次回、キラがやられる！？

護衛任務...アラスカ編（前書き）

アラスカからオノゴロ島を目指せ！！

護衛任務…アラスカ編

護衛任務について2日が経過した…

キ「IJの調査ならあと…2日ぐらいでオノゴロ島付近だよ。」

澪「今の所…順調のようだな…」

キ「あつー。」

澪「どうしたー?」

キ「フリーダムのデータベースに新しいデータを書き換えるの忘れてた!」

澪「データ?何の?」

キ「モビルスーツの戦闘データや特性とかをデータにしたものでね!最近、新型が投入されてたから上書きをしないといけないや?」

澪「大変だなー?」

キ「ちよっとパソコン持つてくるーー。」

ドタバタ…

十分後…

キ「さて、データ作成をやりますか！」

カタカタカタ…

澪「それにしても…」

キ「ん？」

澪「よく、もつもつて戦ってきた敵MSのデータを記憶できんなあ

キ「記憶力だけは自信があるからね」

澪「キラつて、昔はどんなことをして…」

- ۱ -

「警報！」？

澪「何があつた！？」

梓「濬先輩！！バグウの部隊です！」

ク「ザフト軍めーー！」

ダツ：いきなり走り出すキラ

澪「キラーヘビ行くんだーー！」

キ「…僕が行つてやつつけん…！」

ク「待つて！相手はザフト軍のバグウ部隊！！相手が悪すぎるんで
すよ！！」

キ「それでも僕は！！」

ダッ
…

梓「待ってください！！」

澪「梓！！」こゝに任せよつー！」

梓「それなら私達もガンダムで…」

澪「そんな事したら守りが手薄になつてしまつー……ナラを信じよハ
！」

モニター画面

キ「準備完了！いつでも発進できます！！」

キ「キラ……フリーダム！！行きますーー！」

フリーダム発進！！

敵側：

ザ A「敵レジスタンスはソレスタークリーニングと手を組んでいるようですね！どういたしますか？」

？「知れたことをーMS隊全機発進！！俺もテュエルで出るーー！」

ザ A「了解しました！MS隊全機発進ーー！」

？「全機ーーこの俺に続けーー！」

「ーーーーはーつー隊長ーーーー」

一方キラは…

キ「……そろそろ戦闘エリアに入ります」

ピッ：モニター画面

澪「キラ、そもそも敵部隊が現れるぞーあと…気をつけろよ」

キ「…わかっただよ」

۱۰۰

キ「敵機確認！！」

敵側：

ザB「隊長!! 敵MSを確認!!」

？「何機だ！？」

ザB「一機です！」

? 「はつ！？たつた一機で何ができる！全機攻撃開始！！」

「...了解...」

ビュンビュン... ビーム乱射

バシュー・バシュー…ミサイル乱射

キラは

卷之二

避ける…避ける！…避ける！…

キ「下がれ！-！-！」

הַלְּבָנָן

バキン…バグウ 一機に直撃！

ザヒ「うわあああーー？」

ドカン？

ザビ「よくもーーーよくもーーー！」

ビュンビュン…

キ「くつートがれと言つてゐだろー死にたいのかーーー！」

ビュンビュン…

バキン…

ザビ「直撃ーーーひぎやあああーーー！」

ドカン？

?「フリーダムーーー！」

ビームサーベルで切りかかってきた

キ「なつ！？」

ガキン…

キ「くつ！君は！？」

？「墜ちろー・フリーダム！ー！」

距離をとつて…

キ「邪魔をしないでくれえーー！」

フルバースト発射！！

バキン

？「うつーーうわあああーー！」

ドカン？

キ「もう勝負はつきました！降伏を！…」

ザF「た…隊長！…隊長を救え！…！」

ビュンビュン…

キ「つ…！」

ザG「わかった！我々も撤退するぞ…！」

敵は撤退した…

キ「ふう…」

ピ…ジ…モニター画面

澪「お疲れ様、帰艦してくれ！」

キ「了解」

キ「（アラスカでは、ザフト軍と戦闘、ここから先…どうなるんだ
わ）」

一方、狂学者たちは…

アロウズに見つかり、戦闘中

狂「くらえつ…忠義の槍…！」

バキン…

ア A 「あやあああ～～～？」

ドカン？

律「私…」

紬「出てきた意味…」

唯「無いよね～？」

それから数分後…

狂「貴様で最後だ！忠義の舞～～！」

ア B「馬鹿なあ～～？」

ドカン？

殲滅…

一同「……？」

狂「ははは～～」

律「一人でMS一機墜として…ついでに戦艦を三隻まで沈めやが

つた? 「

紹「でも、」それで軌道エレベーターの衛星レーザーの発射施設まであと少しよーーー!」

セ「その通りよーーー!」

ビクッ…

唯「や… セウカちゃん先生?」

セ「先生って、」セウカで書つたなあーーー?」

唯「いのんなや~こ?」

セ「まあ、それは置こといて… 唯ちゃん!」

唯「は… はこーーー!」

セ「あなたのガンダムを今から改造するからねーーー!」

唯「はいっ……えつ……今何で？」

さ「だから唯ちゃんのガンダムを改造……」

唯「駄目……!?」

さ「だつてえ、ダブルオーライザーをたつた一人で操作するのは無理よ」

唯「グサツ……！」

さ「大丈夫、一人でも操作出来るようになるだけよ」

唯……考え中

唯「わかつたよ……グスン

さ「あ……あと少しなんだから頑張って行くわよ……」

一同「おお……！」

さて、無事に衛星レーザーを破壊出来るのでしょうか！？次回に続く

護衛任務...アラスカ編（後書き）

次回は...オノゴロ島へGO!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5879v/>

Another Century's Episode G

2011年11月23日14時49分発行